

2013 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	商学部	身分	准教授
氏名	文 純實		
NAME	MOON、 Soonsil		

1. 研究課題

（和文）朝鮮王朝時代の対外認識について一特に非ヨーロッパ圏を中心に一

（英文）The Choson Dynasty's Recognition of overseas countries—Focusing on non-European area

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）近代の開港前の朝鮮において、直接通交があった外国は、中国と琉球および日本だけであった。他の諸外国に関連する情報は、主に中国から経由して輸入された。こうした近世の対外関係史のなかでこれまでの研究は、対西洋の情報を中心に考察されてきた。そこで、17～19世紀初頭の知識人が非ヨーロッパ圏に関して残している記録を研究対象とした。

研究計画書とおり、朝鮮後期の知識人の中で、地理に言及している魏伯珪(1727-1798)、李種徽(1731-?)、黄胤錫(1729-1791)、朴趾源(1737-1805)、李圭景(1788-?)、柳得恭(1748-1807)、丁若鏞(1762～1836)の史料を影印本またはコピーで蒐集し、整理した。

具体的な考察対象としては、漂流民の経験を朴趾源が纏めた「書李邦翼事」に注目し、関連史料の蒐集および考察を行った。「書李邦翼事」は、李邦翼が、1796年9月21日に済州島からソウルに向かう船で遭難して澎湖島に漂着して帰国するまでの記録を、時の君主である正祖の命を受けて当事者から聞き取りを行い纏めたものである。調べて行く過程で、この記録が朴趾源一人の手に依るものではなく、朴趾源の門下生である柳得恭と朴齊家が聞き取りをし、それを婿である李在誠が纏めたものに朴趾源が手を入れたものであることがわかった。また、内容は単なる漂流の記録だけでなく、漂流し澎湖島からソウルに帰国するまでの道のり、各地域に関連した地誌が纏められている。そこに書かれた地誌情報は、中国の地理書からの引用であり、そこから当時の知識人たちが持っていた地理情報および地理観を窺うことができる。そこで、引用された地理書を調査し、また柳得恭の漂流記録に関連する史料を蒐集し、検討を重ねている。

（英文）I studied Park Ji-won(朴趾源; 1737-1805) to examine the recognition of the non-European area in the late Choson Dynasty. First of all, I collected the documents related to Park's "Seo Yi Bang-ik sa(書李邦翼事)", which tells the experience of Yi Bang-ik(李邦翼) who had been drifted ashore in Penghu Island(澎湖島). Through his writing and these related materials, I investigated Park Ji-won's overseas recognition.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

【学術論文】 （著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）
「朴趾原著「書李邦翼事」にみる燕巖朴趾源グループの対外認識について」（仮題）
上記の題目で、『朝鮮学報』または『駿台史学』へ投稿予定である。
【学会発表】 （発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）
未定
【図 書】 （著者名、出版社名、書名、刊行年）
特になし
【その他】 （知的財産権、ニュースリリース等）
特になし